

尊光寺報

第144号
令和7年9月

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

法要・行事のご案内

◎秋の彼岸会永代経法要

【9月23日(火・祝)】 午後1時より法要・法話
【9月24日(水)】 午後1時より法要・法話

※24日は仏教婦人会による養護老人ホームお接待です。お接待ができない場合は会員による会食と致します。会食は11時半より、準備お手伝いは9時頃よりお願い致します。
両日とも、どなた様もお気軽にお参りください。
法話講師：末澤真吾師(坂出市真教寺)

お彼岸とは、さとり彼岸、阿弥陀さまの極楽浄土のことです。お念仏を申し先立つた方々を偲び、この私も同じ念仏に出会い浄土へ参ることに思いを寄せましょう。どなたさまもお参りください。お待ちしております。

◎宗祖親鸞聖人報恩講法要

【12月20日(土)】

午後1時より 法要・法話
午後5時より お斎(夕食)
午後6時より 大逮夜法要・御伝鈔拝読・法話

【12月21日(日)】

午前10時より 門徒総永代経法要・法話
お昼 お斎(食事)
午後1時より 報恩講ご満座法要・御伝鈔拝読・法話



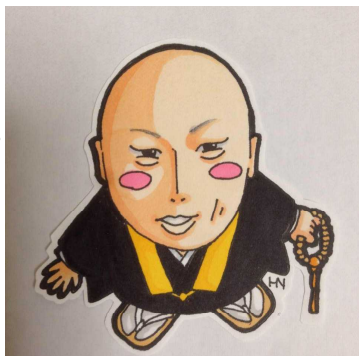
報恩講は宗祖親鸞聖人のご命日を縁として、その遺徳を偲び、お念仏のお救いがこの私まで届いていることを喜ばせていただく法要で、浄土真宗門徒にとって最も大切な法要です。
また、21日の門徒総永代経では一年間にご往生されたご門徒の皆さまのお名前・法名を読み上げます。どうぞ有縁の皆さまお揃いでお参りください。
21日のお斎(食事)はお当番の皆さまによつて準備されますので、どなた様もお食事におつきください。予約などは不要です。皆さまのお参りをお待ちしております。

※本年の報恩講お当番は、土成東組(宮川内・平間 藤原・吉田・法林寺 浦池)です。よろしくお願い致します。

法話講師：赤井智顕 師

(西宮市善教寺副住職・相愛大学准教授)

ご講師の赤井師は、2020年以來のお越しです。副住職の尊敬する先輩であり、ご本山の研究所や安居(僧侶の学問修業)で指導を頂いたり、大変お世話になつておる方です。



赤井先生の似顔絵
(Facebookより)

親しみやすく聞きやすい仏さまのお話を熱く語つて下さいます。どうぞどなた様もお参りください。

◎除夜の鐘 修正会

【12月31日】 午後11時35分頃より

行く年来る年をお念仏とともに。どなた様も除夜の鐘を打つことができます。また本堂では年明けとともにお勤めがあります。どうぞお参りください。

◎正信偈講座③⑧

(赤い経本一九ページ)

天親菩薩造論説 帰命無礙光如来
依修多羅顕真実 光闡横超大誓願

【訓読】天親菩薩、『論』(浄土論)を造りて説かく、無礙光如来に帰命したてまつる。修多羅によりて真実を顕して、横超の大誓願を光闡す。

【現代語訳】天親菩薩は『浄土論』を著して、無礙光如来(阿弥陀如来)に帰命したてまつる。浄土の經典にもとづいて阿弥陀仏のまことをあらわされ、横超のすべれた誓願を広くお示しになり、…

前回から、天親菩薩の部分に入りました。インドカシミール地方で活躍され、千部の論師と呼ばれるほど多くの書物を残された天親菩薩ですが、『浄土論』という書物を著し、どのよう

な煩惱にも邪魔されることなく私たちを救い取ろうとはたらく阿弥陀如来(無礙光如来)とその浄土をお勧め下さつた、ということをお話ししました。

今回は、「依修多羅顕真実 光闡横超大誓願(修多羅によりて真実を顕して、横超の大誓願を光闡す。)」の所です。「修多羅」とは、インドの「スートラ」という言葉を漢字音で表記したもので、スートラとは、たて糸を表す言葉です。インドにおいて、大切な言葉を記録した紙や葉がバラバラにならないように穴を開け糸で綴つていました。その糸をスートラと表現していたようです。また、バラバラにしてはいけない教え、金言なども「スートラ」と表現していました。スートラという語が「経」という漢字で翻訳されるとき、漢字の元の意味である「たて糸」という意味に加えて、「仏の教えを記した典籍」という意味をもつようになりました。

さて、ここでの「修多羅」とは、仏教の經典のなかでも、阿弥陀仏の教えの記されたものを指し、「真実を顕す」とは、阿弥陀仏のお慈悲をあきらかにしたということを意味します。親鸞聖人は真実とは阿弥陀仏の名号「南無阿弥陀仏」であると示し、それは私たちを救おうとはたらいっている姿(相)であると示します。

息子の燈樹を例にしますと、ただいまは三才目前にしてイヤイヤ期の真っ只中です。自分のやりたいことに向かつてまっしぐら。毎日のように「カラー燈樹！」という声が響いています。親の怒る声も果たして届いているのかどうか分かりません。届



父の書道作品の隣で真剣にイタズラ

いているかは分かりませんが、確かに耳には入っているようです。息子は親の声の届く範囲でイタズラに励んでいるのです。親の声が聞こえなくなると親の姿を探しはじめます。姿を見つけるとまたニヤニヤしながら遊びに夢中になるのです。この親の声は、時には怒った声、優しい声、夫婦の会話の声など様々でしょう。どのような声であつても、息子には「あなたの親はここにいますよ」と聞こえているのでしょうか。この安心があるからこそ息子はイタズラに励むことができるのです。

阿弥陀如来の救いのはたらきも、直接はこの目で見ることができません。しかし、阿弥陀如来の名前である「南無阿弥陀仏」の名号は、「わたしはあなたのそばにいますよ」という呼び声としてはたらいっています。阿弥陀如来の声のなかで私たちはこの命を歩んでいるのです。

「光闡」とは、光り輝かせあきらかにすること、広く明らかに説き述べることを言います。

「横超大誓願」とは、阿弥陀仏の本願、南無阿弥陀仏一つで私たちを浄土に生まれさせ仏に成らせようという願い（誓願）のことを言います。ここに「横超」（横さまに超える）と示されています。「よこさま」と聞くと、不自然に、不当に、といった意味もありますが、ここではそのような意味ではありません。仏道修行には「縦さま」と「横さま」の道があると言われます。縦さまの仏道とは、竹筒の中にいる虫が外に出ようとする時に、硬い外皮を食い破るのではなく、比較的柔らかい節を食い破り続け、時間はかかるけれどもいつかは外へ出て行くようなものであり、自力修行を続ける道を意味します。

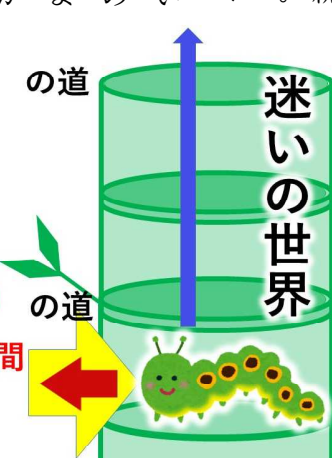
対して横さまの道とは、外からの力によって硬い外皮に穴が開き、中の虫がそこから出ていくようなこと言い、その外からの力とは、私たちを救おうとする阿弥陀仏の本願（他力）であるとしているのです。

自力（**縦**）の道

- ・長い時間
- ・難しい

他力（**横**）の道

- ・わずかな時間
- ・易しい



本願寺派総合研究所作成の図より

広由本願力回向 為度群生彰一心

【訓読】広く本願力の回向によりて、群生を度せんがために一心すなわち他力の信心の徳を明らかにされた。

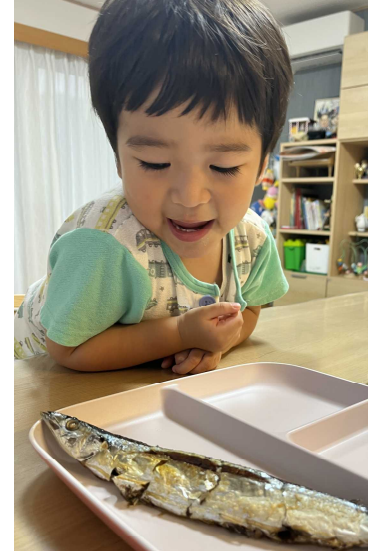
【現代語訳】本願力の回向によつてすべてのものを救うために、一心すなわち他力の信心の徳を明らかにされた。

つづいて、「一心」という言葉の一節に入ります。

ここにはまず、「本願力」という言葉があります。本願力とは、私たちを南無阿弥陀仏一つで救いたいと誓われた願いが力となつてはたらいっているということを示す言葉で、次の「回向」とは、徳の向きを変えるという意味の仏教用語です。あわせて「本願力回向」とは、阿弥陀仏がご自身でおこなった修行の成果である徳・はたらきを、私たちに振り向けてくださっているという意味です。

例えるならば、阿弥陀仏が稲を育てて餅米を収穫するところから、もうもろの作業をおこなつて餅をつき、完成したその餅を、餅を作ることのできないこの私に届けて下さるようなものでしょうか。私たちの目の前には餅しかありませんが、そこには阿弥陀仏のはかりしれないご苦労があつて餅が届いているということがあります。

その餅を「一心」とここで表現されているのです。



初サンマを食べました。多くの命と多くの方のご苦労のたまものを頂きました。

令和7年 年忌表

令和7年の法事と亡くなった年

- 1周忌 令和 6(2024)年
 - 3回忌 令和 5(2023)年
 - 7回忌 平成31令和元年(2019)年
 - 13回忌 平成25(2013)年
 - 17回忌 平成21(2009)年
 - 25回忌 平成13(2001)年
 - 33回忌 平成 5(1993)年
 - 50回忌 昭和51(1976)年
 - 61回忌 昭和40(1965)年
 - 100回忌 大正15昭和元年(1926)年
 - 150回忌 明治 9(1876)年
 - 200回忌 文政 9(1826)年
 - 250回忌 安永 5(1776)年
 - 300回忌 享保11(1726)年
- 過去帳やお位牌をご覧ください。

令和8年 年忌表

令和8年の法事と亡くなった年

- 1周忌 令和 7(2025)年
 - 3回忌 令和 6(2024)年
 - 7回忌 令和 2(2020)年
 - 13回忌 平成26(2014)年
 - 17回忌 平成22(2010)年
 - 25回忌 平成14(2002)年
 - 33回忌 平成 6(1994)年
 - 50回忌 昭和52(1977)年
 - 61回忌 昭和41(1966)年
 - 100回忌 昭和 2(1927)年
 - 150回忌 明治10(1877)年
 - 200回忌 文政10(1827)年
 - 250回忌 安永 6(1777)年
 - 300回忌 享保12(1727)年
- 過去帳やお位牌をご覧ください。

副住職担当、徳島新聞カルチャー教室のご案内

各講座、受講生募集中です。

■ 仏教講座『正信偈(しょうしんげ)』 ■

「きみようむりようじゆによらい」。浄土真宗で一番よく親しまれてきた「正信念仏偈」をテキストに、インドから中国、日本へと伝わった仏教の教え、念仏とは何かを一緒に学んでまいりましょう。

● 毎月第3金曜日 10時半～12時 月額 3300円

■ 親鸞聖人と『歎異抄(たんにしやう)』 ■

「悪人こそが救われる!」『歎異抄』には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉がまつています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧に読み解きあじわつてまいりましょう。

● 毎月第2月曜日 13時半～15時 月額 3300円

【教室・申込先】



Tokushima Shimibun
CULTURE CENTER

徳島新聞カルチャーセンター 徳島本校

徳島市寺島本町西1-5 アニコ東館7階

TEL 088-611-3355

秋の彼岸会永代経法要

2025

9月23日（火曜・秋分の日）
24日（水曜）

両日とも午後1時より お勤めと法話

※ 24日は、仏教婦人会による養護老人ホームお接待です。感染症予防のためにお接待が行えない場合は、会員による会食と致します。会食は11時半より。準備お手伝いは9時頃よりお願いいたします。

お彼岸とは、さとり彼岸、阿弥陀さまの極楽浄土です。お念仏を申し先立つた方々を思うとともに、この私も同じ念仏に出会い同じ浄土へ参ることを聞かせていただきましょう。

どなたさまもお参りください。お待ちしております。

法話講師

末澤 真吾 師

（坂出市真教寺住職）



2025(令和7)年 尊光寺行事予定(下半期)

9月23日(火・祝) 午後 1時 秋の彼岸会永代経法要

9月24日(水) 午後 1時 秋の彼岸会永代経法要

※24日は仏教婦人会による老人ホームお接待です。

11時半より会食、準備お手伝いくださる方は9時頃よりお願いいたします。

11月20日(木) 午前 9時 おみがき(仏具磨き)

12月 1日(月) 午前 9時 お内仏報恩講法要

12月15日(月) 午前 8時半 お餅つき

12月16日(火) 午前 9時 お荘厳(おかざり)

報恩講法要に向けた準備日程です。お昼過ぎ終了の目標です。

皆さまのお力添えを宜しくお願い致します。

お手伝い衆・仏教婦人会会員を募集しております。

12月20日(土) 午後 1時 報恩講法要・法話

午後 5時 お斎(食事)

午後 6時 報恩講大逮夜・御伝鈔拝読・法話

12月21日(日) 午前10時 総永代経法要・法話

午前11時半 お斎(食事)接待

午後 1時 報恩講ご満座法要

・御伝鈔拝読・法話

※本年のお当番は土成東組です。宜しくお願い致します。

土成東組は、宮川内・平間・藤原・吉田・法林寺・浦池です。

12月31日 午後11時40分 除夜会(除夜の鐘)

1月 1日 午前 0時 修正会

どの行事もご参加をお待ちしております。